

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障がいの状態や特性に応じた指導を通して、それぞれの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための生きる力を育む。
(2) 現状と課題	児童生徒数の増加により、多様な障がい特性に対応した指導及び自立活動の充実など、一人一人の教育的ニーズに応じた指導が一層求められている。学校経営にあたっては各関係機関との連携強化を図るとともに、地域の協力、保護者の参画による学校力の向上に努めている。
(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実 2 キャリア発達を促す指導の充実 3 地域と連携・協働した活動の推進 4 連帯と協力による学校運営の推進
(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対して、学部参観日に学校評価結果について資料を配付し、説明した。 ホームページに掲載している評価結果を更新する予定である。

学校整理番号	特7
学校名	青森県立青森第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・ <u>知的</u> ・肢体・病弱
自己評価実施日	令和7年12月19日(金)
学校関係者評価実施日	令和8年2月10日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員9名 保護者1名、地域及び地域住民2名、 児童養護施設職員1名、 実習・進路先施設職員1名、青森市保健所職員1名、 学識経験者2名、当事者団体代表1名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	個に応じた教育活動の充実	①主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり ②多様な病態や障がい特性に応じた教育的対応の工夫 ③ICTを活用した学習活動の充実	・「児童生徒の資質・能力を育てるための指導の在り方～単元配列表、単元計画シートの活用～」をテーマとして校内研究に取り組むことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりにつながるのと同時に、年間指導計画の様式改善にもつながった。 ・タブレット端末の活用に重点を絞り、児童生徒の学習活動に役立つアプリや生成AIに関してミニ研修会を年10回実施し、教師のICT活用スキルに向上に取り組んだ。	A	・児童生徒が様々な体験を重ねることができているが、その時の自分の気持ちに気づくような指導の充実に期待している。また、学習を進めるにあたっては、児童生徒がじっくりと取り組む内容と時間を確保するようにしてほしい。	・全校研究の成果を踏まえ、学習指導要領に基づいた単元づくり、授業づくりの充実を図る。 ・知的障がいや自閉症のみならず、愛着障がい等一人一人の障がいや困難さに応じた専門性の向上に取り組む。
2	キャリア発達を促す教育活動の充実	①児童生徒の思いや願いを踏まえた指導の展開 ②自立と社会参加を目指した指導内容の整理と指導方法の工夫 ③各学部が連携した教育活動の推進	・特別支援学校総合スポーツ大会への小学部高学年児童の応援参加、中学部と高等部生徒の合同進路学習会、中学部生徒の高等部作業学習見学など、小・中・高の児童生徒同士が交流する学習活動に取り組んだ。 ・大学生との絵本の読み聞かせや体操をとおした交流活動、アイドルグループを招いた集会活動などを企画、実施した。	B	・児童生徒一人一人が「自分の活動が誰かの役に立っている」と実感できる機会となっていると思う。この実感をさらに充実させていくことが、児童生徒の内面の醸成につながるのではないかと。	・各学部で共通して取り組む教育活動において、各学部段階の目標や学習内容を整理し、全職員が共通理解のもとで指導にあたる。 ・児童生徒が将来に対する見通しや目標をもつことができるように、異学年同士の学習活動や地域の社会活動に触れる機会を工夫して設定する。

3	関係機関等との連携強化	<p>①地域の人材や資源、学校運営協議会を活用した指導の展開 ②保護者や関係機関との円滑かつ効果的な連携の工夫 ③特別支援教育における地域のセンター的役割を担う取組の充実</p>	<p>・戸山地区の清掃や資源回収活動等、地域住民との交流や地域の協力を得て行う活動を設定し、工夫や改善を図りながら実施した。 ・子どもの発達に関する教育相談を行うとともに、「のようにここにこランド」を企画、実施し、土曜日に、未就学児が学校での活動を体験したり、保護者が養育や就学に関する相談をしたりする機会を設けた。</p>	A	<p>・地域との交流やさまざまな活動により、児童生徒自身ができることの達成感や感謝の気持ちを持って取り組んでいる。特に資源回収は頼りにしている方々がいて、「いつもありがとう」と言われることに取り組んできた年月を感じる。できればこういう活動時には、報道関係などに投げ込みをして地域に幅広くお知らせしてもよいのではないか。</p>	<p>・保護者、入所施設や放課後等デイサービス事業所等と日常的に児童生徒の状況を共有し、共通のかかわりや支援を行う。 ・児童生徒のニーズを把握し、地域資源の情報を収集した上で、各学部段階に応じた地域交流活動を展開する。</p>
4	連帯と協力による学校運営の推進	<p>①県単位事務局（青森県特別支援学校スポーツ連盟事務局、特別支援学校技能検定・発表会清掃分野マネージャー校、特別支援学校養護教諭連絡協議会）業務の遂行 ②服務規律の徹底と福利厚生への推進 ③業務改善をとおした教職員のワークライフバランスの充実</p>	<p>・体罰、不適切な対応に関するアンケート結果を踏まえ、教職員全員でワークショップを実施し、望ましい対応について話し合う場を設けた。これにより、職員一人一人が問題を自分事として捉え、児童生徒の尊厳や安全に配慮した関わりへの意識が高まった。 ・スクールバスの位置情報アプリの導入、生成AIを活用した各種会議録の作成等に取り組み、教職員の負担軽減につながった。</p>	A	<p>・教職員の業務改善について、非常に学校運営も大変な時代だとは思いますが、結果的には「良い教育活動」につながる大きな要因の一つだと思うので、今後の継続的な取り組みに期待している。</p>	<p>・適切なかかわり、指導・支援を意識する機会を積極的に設ける等、服務規律の徹底を図る。 ・業務運営が効率的・効果的になされるよう業務の平準化を図るとともに、生成AIの活用を進め、さらなる業務改善に取り組む。</p>

(11) 総括	<p>「教職員による自己評価」20項目の平均評価点が3.3（昨年度3.2）、「保護者アンケート」19項目の平均評価点が3.6（昨年度3.6）、「学校関係者アンケート」20項目の平均評価点が3.8（昨年度3.6）であり、全項目の達成度の平均が教職員90%、保護者96%、学校関係者100%であることから、今年度の教育活動については「おおむね適切に実施された」と捉えることができる。 教職員の自己評価及び保護者アンケートの結果、学校運営協議会委員からの意見や要望を踏まえ、次年度は各学部間の連携を図り、キャリア教育に資するカリキュラムマネジメントを推進するとともに、より一層の業務改善により、教職員が児童生徒と向き合い、丁寧に授業づくりに取り組める時間を確保することに努めていく。</p>
---------	---